

JAきたみらい「スイカ研究会」(西森 信夫代表)

流通が軌道に

一昨年、柏丘の6戸の農家が楕円形となるスイカの品種「紅まくら」を試験栽培、昨年は本格的に栽培し、スイカ祭りを開催しました。3年目となった今年は、「紅い宝石」という商品名で、流通に乗せ、軌道に乗ってきました。

現在は、北見市内の農家も含め9戸で20アールを作付し、今年もスイカ祭りを実施、大盛況でした。

訓子府町は、メロンで有名ですが、そのメロン栽培の技術に近いスイカを栽培しようと始まり、出荷をめざした本格的なスイカ栽培は訓子府町では初めてで、流通が軌道に乗り始めたことから、来年以降の生産に弾みがつくと期待されています。



訓子府の元気 農業

農業振興へ 新たな取り組み

顔が見える農業
地産地消
訓子府農業のアピール

訓子府町の基幹産業である農業。今年は、猛暑や突然激しく降る雨により、てん菜の生育やばれいしょの品質が心配されていますが、刈り取りが既に終わった小麦はまずまずの状況で、おむね各作物とも平年作が見込まれそうです。

そうした中で農業そして「訓子府の元気」をつくるためにさまざまな農業者グループが新しい取り組みを行い、町内の産業全体を活性化させています。



野菜倶楽部 (下田裕美子代表)

食育活動を主眼 地元農業青年との交流も

町内の農家女性4人による野菜倶楽部が7月に、町公民館で地元農業青年と女性とが町内で生産された食材を使った調理を通して交流するイベント「くねっぶ 食との出愛」を開催しました。

3年前に結成された野菜倶楽部では、これまで自分たちで手掛けてきた「食育」と、農業青年との交流の場をつくるためのイベントを今回初めて企画。町内農業青年7人と北見市内の女性11人が参加し、昨年収穫したスノーマーチを使った4種類の「つくね」をグループごとに分かれ調理しました。

これまでJAや行政主導での類似企画はありましたが、生産者自らが考え、企画するイベントは初めてではないでしょうか。

下田代表は「野菜倶楽部のメンバーはあくまでも調理などの補佐役で、主役は参加者の方々。生産者と消費者との交流から友人となり、いろいろな出会いにつなげてほしい」と話していました。

このイベントは、12月に同じメンバーでもう一度開催する予定です。今後も農家のお母さんたちのますますの活躍に期待しています。

「モーモークラブ農酪っ娘」(大塚 良子代表)

チーズとおして食育を

手作りチーズの研究を中心に活動し、食育活動や地産地消をめざしたグループです。

昨年11月に農業交流センター「くる・ネップ」でチーズを試作したのがきっかけで、今年3月に酪農家夫人6人で発足しました。

現在は、JA営農センターの施設を借りて月2回程度試作品製造を行っています。

チーズ製造は、温度調節などが難しい食品で、メンバーは悪戦苦闘しながら試作品づくりを続けています。

目標は、農産物を販売している町内グループと連携し、チーズや生キャラメルを地域の方に味わってもらいながら、食育活動や地産地消につなげることです。

